

「平成19年度普及に移す成果」

本県で発生するメロンつる割病菌3レースに耐病性を有する台木品種

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター園芸研究所

本県で発生するつる割病菌3レース（レース1、レース1,2w及びレース1,2y）に耐病性で、実用的な栽培特性を有する台木品種として、「ワンツーアタック」、「タイトガード」及び「UA-902」を選定しました。

つる割病菌3レースに対する台木の耐病性

台木品種「ワンツーアタック」、「タイトガード」及び「UA-902」はいずれも、浸根接種法において本県で発生するレース1に抵抗性、レース1,2wに高い耐病性を有し、レース1,2yに対しても耐病性を示します。病原菌の汚染程度が高い場合、発病度が高まります。発病圃場では、必ず還元型太陽熱土壌消毒等の土壌消毒を行い、病原菌密度をさげてから使用して下さい。

表 浸根接種法及び汚染圃場における各台木品種のメロンつる割病の発病度

品種	各レースを浸根接種 ¹⁾ した場合の発病度 ²⁾			レース1,2y汚染圃場で接ぎ木栽培 ³⁾ した場合の発病度	
	レース1	レース1,2w	レース1,2y	病原菌接種量 (g/m ²)	発病度
ワンツーアタック	0	18	73	10	5
				50	33
タイトガード	0	27	39	10	0
				50	58
UA-902	0	33	68	10	0
				50	42
FR-2	0	0	99	10	90
				50	100
アンデス	100	100	100	10	100
				50	100

1)接種濃度: 1×10^7 bud cell/ml, 15秒間浸漬, 管理温度21℃

2)発病度: 発病なし0 ~ 株の枯死100

3)栽培概要: 穂木品種「アンデス5号」、主枝1本仕立て立ち作り、1株1果着果。

接ぎ木特性と播種のタイミング

胚軸径は「タイトガード」、「UA-902」、「ワンツーアタック」の順に太くなります。挿し接ぎを行う場合の播種のタイミングは、穂木品種播種前の日数の目安として「タイトガード」が4~6日、「ワンツーアタック」が9~11日、「UA-902」が7~9日です。挿し接ぎの手順は以下のとおりです。



台木の本葉をとり除く



台木から突きでない位竹串等で穴をあける



穂木を斜めに切り下げる



切断面が下になる様台木にさし込む



接ぎ木後3日程度は遮光し、トンネル密閉

接ぎ木栽培における果実特性

接ぎ木栽培における果重は、いずれの品種も自根栽培と比べ、4月収穫の「オトメ」ではやや小さく、5月収穫の「アンデス5号」では同程度で、6月収穫の「クインシー」ではやや大きくなります。また、台木品種間の果重は、「ワンツーアタック」、「タイトガード」、「UA-902」の順にやや大きい傾向が見られます。果実品質は、自根栽培と同程度です。

品種の選定と施肥量の目安

いずれの品種も「FR-2」より草勢が弱く、施肥量は自根栽培と同程度とします。4月~5月上旬出荷作型や地力の低い圃場では「タイトガード」や「UA-902」を用いる場合に草勢が弱くなる場合がありますので、2~3割増肥します。一方、還元型太陽熱土壌消毒等で草勢が旺盛になる事が懸念される圃場では「タイトガード」や「UA-902」を用いたり、「ワンツーアタック」を用いる場合でも2~3割減肥する等して草勢を調節します。

<問い合わせ先: 園芸研究所プロジェクト研究チームメロングループ 電話0299(45)8340>